

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒が自ら課題を発見し、探究する意欲を高めることのできる教育課程の編成や特別活動の精選・充実に取り組み。学校行事や生徒会活動等の精選と充実を図り、生徒の主体的な活動を支援するとともにそのユニバーサルデザイン化をはかる。</p> <p>②生徒の主体的な学びを引き出し、個々の生徒に応じた教科指導体制の構築と評価法の研究を行い、組織的な授業改善に取り組む。</p>	<p>① 生徒の課題解決力や学ぶ意欲を育むとともに、大学入試改革や新学習指導要領に柔軟に対応できる新教育課程の編成に取り組む。限られた授業日数の中で学校行事を効果的に実施する。</p> <p>②ICT機器の活用や対話的な学びを推進するとともに、TT体制の検証など柔軟な教科指導体制を実践する。</p> <p>感染症対策での授業の遅れを回復するため、学習指導の展開を工夫する。</p>	<p>①教育課程検討会を定期的に開催し機能化させ、教職員の共通理解を図りながら、新教育課程の編成に向けた最終検討作業を行うとともに前例にとらわれぬ発想で年間行事予定を再編成し、生徒の活動を支援する。【教務教育課程検討会議 生徒会 管理運営】</p> <p>②優れた授業実践や教材等を共有するための教員相互の情報共有や授業見学会等を推進する。</p> <p>状況を踏まえた年間指導計画の変更と適切な評価規準の設定を行う。【教務】</p>	<p>①生徒の進路実現に向けた新教育課程の編成案が作れたか。また、年度末のアンケート等で生徒が学校生活について積極的な評価ができたか。</p> <p>②生徒による授業評価の「授業の充実感」「生徒主体の授業の工夫」の項目で高評価が得られたか。</p> <p>年間指導計画の変更と評価規準の再設定で、学習目標を達成できたか。</p>	<p>①年間行事予定を再編成し、生徒の活動を支援した。教育課程検討会を定期的に開催し、様々な議論を経て新教育課程を作成した。</p> <p>②授業見学会(研究授業)及び教科会を実施した。授業評価に関しても高評価が得られている科目も多い。コロナ禍であるため、年間指導計画についても柔軟性を持たせるようにした。</p>	<p>①状況に応じて、行事予定を再編し、生徒の活動を支援していきたい。新教育課程編成にあたり県より科目設定等の指摘を受けているので対処していきたい。</p> <p>②授業評価については評価が極端に低い科目もあり、教科での検討を依頼し改善を図りたい。</p>	<p>①新教育課程における「総合的な探究の時間」についてビジョンを示してほしい。</p> <p>ベーシック科目(英語)を新教育課程ではなくすということは、学びの場を共有するという点でとても有意義だと考える。</p> <p>教員相互の視点だけではなく、生徒視点での授業改善が必要だと考える。</p> <p>②昨年度に比べ極端に評価の低い教科がなくなった。また、授業評価のアンケート結果で、多くの教科において、2回目のほうが1回目より高評価なのは大きな成果である。一方で数値判断か、変化の判断かなど、評価の見方、基準を説明するなどの工夫が必要であろう。ICT機器の活用について教員間で差が出ないよう研修を積んでほしい。</p>	<p>①コロナ禍の中、行事や日程を工夫し、授業時間の確保に努めた。新教育課程編成に向け、生徒の進路希望に配慮した多様な選択科目を配置した。</p> <p>ベーシック科目を廃止し、インクルーシブ教育を一層推進した。</p> <p>②授業評価の低い科目が一部あるので、改善が必要である。</p> <p>コロナ禍において、必然に迫られ、ICT機器を活用したHRや授業を行った。教員間に実力の差はあるものの、基礎的な知識・技術はほぼ全員が得ることができた。</p> <p>年間指導計画の達成は課題配信などで工夫した。</p>	<p>①朝読書を継続し、「総合的な探究の時間」での取組を外部に発信できる力をつける指導を行う。</p> <p>ユニバーサルデザインに基づく授業をめざし、生徒の視点での授業改善を図り、インクルーシブ教育に一層取り組んでいく。</p> <p>②「生徒による授業評価」の見方を明確に提示し、教員が取り組みやすい授業改善の方針を示す。</p> <p>ICT機器は限られた機材しかない中で、教員同士が協力しあい、教えあうことで、より一層の授業力の向上を期待する。</p> <p>年間指導計画については評価規準をもとに達成を見極め、来年度に生かしていく。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①部活動の活性化を推進し、協調性と責任感の涵養を図る。</p> <p>②生徒指導と生徒支援の一体化を推進し、教育相談体制の充実と外部連携を進めるとともにユニバーサルデザイン化を図る。</p>	<p>①部活動の活性化のため加入率の向上と充実感の育成につながる継続的な支援体制整備に努めるとともに、学業との両立を押し進める。</p> <p>②各学年が生徒の課題を的確に把握し、個に応じた指導と支援が一体化した、きめ細やかな生徒支援を進める。</p>	<p>①新入生の部活動加入促進の方法を検討、改善するとともに、中学生対象の部活動見学・体験などを通して、次年度入学希望者への働きかけを実施する。【生徒会 情報管理】</p> <p>②多様な生徒のニーズに対して、チームによる多角的な支援を迅速かつ適切に展開する。【生徒支援】</p>	<p>①部活動加入率低下に歯止めがかかったか。途中退部に係る分析や対応策を検討できたか。学業とのより良い両立を目指した支援が行えたか。</p> <p>②ケース会議等の取組が支援の必要な生徒の指導に生かせ、迅速で適切な課題解決につながったか。</p>	<p>①運動部・文化部あわせた部活動加入率は62%であった。前年を下回ったが、コロナ禍の影響が懸念された1年生は70%を超えた。加入の鈍かったここ2年間の影響が残っており、回復には時間がかかると思われる。</p> <p>コロナ禍で中学生対象の部活動体験ができない中、説明会等では各部活動で動画やパネルをつくり参加者への情報提供をした。</p> <p>②生徒の様々な問題について、ケース会議等を通じて情報共有を図り、問題の解決に向けて組織として取り組めた。</p>	<p>①従来の新入生に対する部活動勧誘行事に、昨年度から実施した部活動見学会をより充実させ、今年度並みの加入を目指したい。一方で入学前、すなわち中学生に本校の部活動への興味関心を持ってもらう必要性を感じている。情報管理Gと連携して、生徒活動の活性化の重要な要素として部活動の振興を図る。次年度は中学生に直接、部活動を体験していただける機会を設け働きかけを強めたい。</p> <p>②生徒の抱える課題が多岐にわたっており、適切に対応する体制の一層の組織化を進める。登下校のマナー、交通安全意識の涵養の徹底に努める必要がある。</p>	<p>①1年生の部活動加入率は好転している。コロナ禍での指導は難しい面もあるが、よく指導している。また、例年以上に部員が加入した部活動の要因を分析し、ほかの部活動や勧誘活動に反映していけたら、もっと活性化するだろう。</p> <p>TVKで陸上競技部の活動が紹介されるなど、部活動体験ができなかった中学生へのよい疑似体験になったのではと考える。</p> <p>②インクルーシブ教育は生徒全体にも良い影響を与えるので組織全体で積極的に取り組んでほしい。</p> <p>SNS上のマナーや指導について課題としてとらえ、評価してはどうか。</p>	<p>①数少ない機会を利用し、生徒会グループが中心となり、部活動勧誘に取り組んだ。運動部に入部する生徒が予想より多く、部活動のニーズはまだ高いことがわかった。また、HPや映像を利用することで活動をわかりやすく紹介することができた。</p> <p>②支援が必要な生徒に個別の状況を踏まえた組織的な支援体制で対応することができた。</p> <p>スマートフォンの扱い方やマナーなど、本来なら4月に行うべき一斉指導が遅くなったことで問題行動に結びついたケースがあった。</p>	<p>①部活動と学業の両立を目指すモデルケースを示し、具体的な高校生活を映像で示せるようにする。</p> <p>②リソースルームやケース会議など、生徒一人一人にあった細やかな配慮と組織的な支援を行う。</p> <p>時機をとらえた的確な指導を行い、生徒自らが安心安全な生活を送るためにすべきことを考えさせる。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒自身が考え、体験をするなど、主体的に取り組むキャリア教育を計画的・段階的に実践する。 ②「実践推進校」として、生徒一人ひとりの社会接続を実現するために、ていねいな進路支援を行う。	①生徒一人ひとりの進路実現に向け、進路開拓につながる学習意欲の喚起を図るとともに、生徒の主体的な進路実現の動きを促す指導体制づくりを進める。 ②連携生徒の社会接続に組織的に取り組む	①校内での情報共有や進路データの有効活用を進め、複雑化する入試制度に対応できるよう、的確な情報提供を行い、生徒が自らの進路開拓に挑戦できるよう支援する。【進路】 ②「進路実践」の3年間の内容や流れについて系統的整備を進めるとともに、組織づくりをすすめ、生徒の個々の希望を踏まえた幅広い実習・体験先の開拓を行う。【進路】	①生徒の進路目標を明確にし、安易な進路選択に向かわせないような指導が実施できたか。 ②連携生徒の個々の希望を踏まえた社会接続が実現できたか。	①集会形式からICT利用形式の説明会、ガイダンスにかえ情報提供を行った。同時にSNSを利用した個別指導を行い、生徒の進路計画の実践を支援した。 ②「進路実践」の前期実習では校外での実習体験が行えず、見学だけであった。3年生は昨年度までの2年間の実習を通し、各々の特技や特性を生かせる進路に進むことができた。	①今年度はオンライン説明会やオンライン面接試験が主流となり、対応できる設備のない生徒に対するサポートが課題となった。学校の限られた資材・設備でどこまで対応できるか検討と工夫が必要となる。 ②校外での実習や体験ができない場合の代替措置をどうするか検討しなければならない。	①熱心に進路指導に当たっている。対面指導が厳しい中、4月調査と決定数に差がなく、今後も「行きたい進路」で頑張れる生徒の育成をお願いしたい。3年生の集計では前年度よりも決定者の割合が増えており(81.6%→89.4%)コロナ禍の中、素晴らしい実績である。難関大学の受験を避ける傾向が一般的に広まっているが、情報収集等を積極的にを行い、よりよい大学選びを行ってほしい。また、足高生にとって、難関大学とはどこなのか説明がほしい。 ②進路実践授業では、引き続き技術校等を積極的に利用して欲しい。	①今年度はコロナ禍の中、オンラインでの試験や説明会が主流となり、学校の資材を活用して対応した。最終的には前年度を上回る決定率となった。3月末まで粘り強く指導をした結果、就職・進学共に3月30日に朗報が届くといった場合もあった。 ②校外での実習や体験ができない場合には技術校や施設などから講師を招き、模擬授業をしていただくことで補った。 ③職業技術校や施設、企業との連携をより一層強くする。来年度は、より幅の広い進路選択、実習を示せるようにする。	
4	地域等との協働	①地域に情報発信するとともに、生徒の地域理解と地域貢献を通じ、連携と協働を推進する。 ②地域と連携して、地域防災を推進する。	①本校の魅力の発信のためにHPやデジタルコンテンツの充実を図る。コミュニティスクールを活用して様々な外部の意見を聴取し、学校運営に活かす。 ②防災関係のマニュアルの周知を徹底するとともに防災教育を推進し、総合的な防災体制を強化する。	①地域のニーズ、中学生及びその保護者の進路選択の実際等、情勢分析を行い、生徒の生き生きとした活動を情報として提供する。【情報管理】 地域との連携を推進するコミュニティスクールを組織する。【管理運営】 ②災害に対処する実践的な訓練を計画実施する。【管理運営】	①HPの定期的な更新や学校説明会等で、情報の質と量の確保、的確な情報提供と丁寧な対応ができたか。コンソーシアムの形成や職員の業務遂行に資するコミュニティスクールを組織できたか。 ②南足柄市と協議を継続し体制整備が進められたか。	①今年度は状況から地域との連携を図ることが難しかった。中学校・新入生・保護者のニーズを把握したうえで、説明会の運営を行った。HPやYouTubeでの頻繁な情報提供を心がけた。 ②シェイクアウト訓練・火災避難訓練・防災図上訓練を実施することができた。	①地域連携を学校行事や防災活動にも広げ、生徒の参加も促していく。 コロナの影響で地域との連携が不十分だった。次年度は生徒主体で中学生や地域の方とふれあえる機会を作りたい。HPもより一層の充実を図りたい。 ②防災訓練などを通して、自治会や南足柄市等の意見を積極的に反映させていく。	①コロナ禍で困難な取り組みだったと思うが、HPや動画の充実など、ほかの高校に先駆けて取り組まれたことは素晴らしい。プラスの材料となる情報や成果を今後発信してほしい。また、定期的な更新を行い、さらなるICTを活用した取組を工夫してほしい。地域の中学校との連携に意欲的だが、今後の成果を期待したい。	①今年度は様々な状況から地域との連携を図ることが難しかった。中学生対象の説明会では限定的な活動になってしまったが、一方でHP上や県の動画サイトなどで、制作した動画を配信するなど、積極的に取り組んだ。 ②校内だけではあったがシェイクアウト訓練・火災避難訓練・防災図上訓練を実施することができた。	①HPや動画の充実など、今後もその成果を発信し続けたい。また、定期的な更新を行い、ICTを活用した取組を工夫する。地域の中学校との交流を図っていく。 ②シェイクアウト訓練、防災訓練などを通して、防災マニュアルを検討し、自治会や南足柄市等の意見を積極的に反映させていく。
5	学校管理 学校運営	①学校全体で教育環境に対する課題を共有し、組織的・計画的に改善していく体制を整える。 ②不祥事防止に努め、実効性のある組織的な取り組みを行う。	①魅力と特色づくりのための会議を設置し、学校課題を職員一丸となって把握し、解決に向かう意識を醸成するとともに、効果的な業務遂行に向けた働き方改革を推進する。 ②教職員一人ひとりが自覚と誇りをもち、全校体制で不祥事防止の徹底に引き続き取り組む。	①協働によるメリットの最大化に向けたスローガンを設定し新規に設置した会議の中での協議を通じて、学校課題の解決に向けた具体的なプランを練り上げる。 ②教職員の意識向上とコンプライアンスマニュアルを活用した効果的な不祥事防止研修、事故防止会議を計画的に実施し、不祥事ゼロプログラムを着実に実施する。	①本校の魅力と特色の明確化や、課題解決に向けた働き方改革の道筋について、職員間での共有ができたか。 ②事故防止会議等の定期的な実施により、事故・不祥事を未然に防止できたか。	①魅力と特色会議を開催できず、学校改革の目標づくりに至らなかった。 ②月1回の事故防止会議を確実に開催し教職員の日常のふりかえりを行い、意識向上を図るとともに、適時な注意喚起の実施が事故、不祥事の未然防止に結びついていた。	①本校の特色をとらえなければ、業務の効率化と業務総量の削減も不可能であるので、来年度は会議の開催を計画し、職員個々の意識を高める方策が必要である。 業務の引継ぎを意識した計画的な人材育成が必要である。 ②教職員一人ひとりが自覚をもって、引き続き事故、不祥事防止の徹底に取り組む。	①魅力と特色づくりの会議の進捗状況が良くなかったことを残念に思う。来年度はぜひ活発な意見交換をしていただきたい。 HPの動画はわかりやすくよくできていた。図書館も充実しており、全体的に取り組みも先進的であるように思う。動画作成が新入生に与えた影響はどうだったのか、ぜひ調査してほしい。 ②事故・不祥事がなかったことはよかったが、引き続いて努力をしてほしい。	①魅力と特色づくりの会議で業務遂行に関わるアイデアなどを年齢やキャリアに関わらず話し合いをしたかったが、コロナの対応などで取り掛かることができなかった。 業務の見直しもできなかった。 一方で新しく取り組んだ動画は情報発信という点からもよくできていた。 ②月に一度、事故防止会議等の定期的な実施により、事故・不祥事を未然に防止できた。	①魅力と特色づくりの会議を行い、アイデアを出し合う。また動画作成が新入生に与えた影響をアンケート等を行い検証する。 ②今後も月に一度、事故防止会議等の定期的な実施により、事故・不祥事を未然に防止していく。